



## 関西支部若手企画委員会 「自宅で味わうオンラインセミナー」報告

2021年7月21日、本会関西支部若手企画委員会主催の「自宅で味わうオンラインセミナー～商品開発のウラ側を直撃～」が開催されました。本企画は、従来のオンラインセミナーとは異なり、紹介する商品を参加者の自宅に事前にお届けし、実際に商品を手にとって味わいながらご聴講いただく、体験型のオンラインセミナーとして実施しました。セミナーは3部構成で、第1部では関西の飲料・食品メーカー4社にご協力いただき、商品の研究開発内容をご講演いただきました。続いて第2部では、若手企画委員が務めた司会との対談形式にて、開発の裏側に関する秘話や美味しい味わい方などをご紹介いただきながら、実際に商品を試飲・試食しました。最後の第3部では、オンライン懇親会として演者の方々が各ルームに分かれて、参加者とざっくばらんな意見交換を行いました。商品の事前発送などの苦勞の甲斐もあり、合計63名の参加者にはお楽しみいただくことができたと考えています。

事前発送作業では、10名の学生アルバイトの協力のもと、流れ作業的に箱詰め作業を実施しました(図1)。「商品の内容が充実していて良かった」「商品が届いてから開催までの一週間、よりセミナーが楽しみになった」という嬉しいご意見もありました。

セミナーは、若手企画委員会の園彰吾代表(白鶴酒造株式会社)の開会の挨拶より第1部が始まり、山崎思乃先生(関西大学)の司会のもと(図2)、4件の研究開発についてご講演いただきました。初めに藤田陽平様(サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社)より「ザ・プレミアム・モルツの美味しさを支える技術について」と題し、ダイヤモンド麦芽と呼ばれるチェコの希少な麦芽をダブルデコクション製法で煮出し、ファインアロマホップで仕上げたことで、ヴァイタートリンケン(飲み飽きない、また飲みたくなる)の感じられるピルスナービールの開発に至った経緯をわかりやすくご紹介いただきました。続いて、美登路優様(江崎グリコ株式会社)より「おつまみスナック『チーザ』開発秘話」と題し、ハイチーズ製法によりチーズ51%と高配合で作製したこれまでにないおつまみを開発し、さらに2015年には原料を粉チーズからより香りの良い生チーズに置き換えた際の苦勞話などをお聞かせいただきました。焼きムラを防止するために商品の形状や成型方法には多くの工夫がなされており、風味も味覚センサーなどで評価し、見える化されていたのも印象的でした。続いて、高尾佳史様(菊正宗酒造株式会社)より「樽酒のおいしさの秘密と楽しみかた」と題してご講演いただき、樽酒にすることで生じる風味の違いは、香りに起因するところが大きく、嗅覚を無効にした官能評価では差がないこと、香り成分では特にセスキテルペン類が重要な役割を果たしていることなどの研究成果をご紹介いただきました。また、樽酒中の杉樽由来の成分は口中の脂成分を洗い流し、脂っぽい料理をさっぱりさせる食べ合わせ効果があり、特にウナギなどの魚介類との相性が良いなどのお話をいただきました。最後に、根来宏明様(月桂冠株式会社)より「新しい酵母を新しいお酒に活かすまで」と題して、吟醸香



図1. 事前に参加者に発送された商品



図2. 第1部の講演の様子



図3. 第2部の対談の様子

の一つであるカプロン酸エチルを高生産する清酒酵母の育種や、自社の歴史的な木造蔵から単離した酵母を清酒醸造に適するように育種し、「The shot」と呼ばれる若い世代への新しい飲み切りカップ酒を開発されたお話がありました。

続いて、参加者お待ちかねの第2部では、冒頭で適正飲酒に関する注意を受けたのちに、中澤昌美先生（大阪府立大学）と駒大輔様（大阪産業技術研究所）のお二人による司会のもと、対談形式で開発の裏側に関する秘話や美味しい味わい方などをご紹介いただきながら、実際に商品を試飲・試食しました。筆者も実際に参加しましたが、司会者からの指示で、Zoomのビデオ設定の「ビデオ以外の参加者を非表示にする」という設定を行うことで、司会者と演者のみが画面に映し出され、より対談の雰囲気を感じることができました（図3）。お二人によるとても自然で歯切れの良い司会のもと、演者との小気味よいやり取りに後押しされ、対談に入り込むことができました。また、実際に司会者がグラスを手にとって味わっている姿を眺めながら、自分も試飲・試食することで、これまでのオンラインセミナーにはない、対面に近い臨場感を感じることができました。チーザは噛む前に舌にのせて風味を味わう、The shotの4色のお酒はどの順番で飲むとより美味しく味わえるか、など開発者のみぞ知る楽しみ方を共有することができました。第2部では、お酒の力もあってか、第1部よりも積極的な質疑・応答が交わされ、商品のパッケージに先ほど聞いたばかりの開発者の思いが表現しきれていないのではないかなど、実際に手元に商品があることで、議論に花が咲きました。

続いて、第3部は懇親会として、講演者ごとにルームを準備し、第1部、第2部では語りつくせなかった点について、さらに話が盛り上がりました。今回の企画には学生さんにも多く参加いただきましたが、懇親会では学生が積極的に質問する姿も見受けられ、第2部までの企画によりうまく場の共有ができた結果、自然とコミュニケーションがとりやすい雰囲気になったのではないかと感じました。第3部終了時には集合写真も撮影し、盛況の後に終了いたしました。うわさによると、有志による第4部が引き続き開催されたようです。

参加者からのアンケートでは、「神企画」との評価もいただき、「五感で感じたことによりしっかり記憶に残った」「実際の開発者による話が聴けてよかった」「コロナ禍においても従来の対面に近い雰囲気を味わうことができた」「ぜひ次回も企画してほしい」など大変高評価をいただきました。一方、要望としては、今回のセミナーは15時開始だったこともあり、平日18時以降や土日など試飲しやすい日時での開催を希望する声や、医薬品・化粧品業界にも対象を広げてほしいなどの声が寄せられました。

関西支部若手企画委員会では、今後より多くの学会員がこのような体験会やセミナーなどに参加し、知識と会員間の親睦が深められる企画を提案して参ります。

（関西支部若手企画委員 尾島由紘）